

文化・芸術

原画名：カルロ・クリベッリ
「マグダラのマリア」(部分)

原画制作年：1480年ごろ
板、麻布、石膏(せつこう)地、卵黄、亜麻仁油、
顔料、金箔(きんぱく) 41・4cm×28・4cm

十二^と芳明

イタリア・ルネッサンス時代のこの画家の名前をご存じでしたら、かなりヨーロッパ美術に詳しい方ではないでしょうか。クリベッリは、この妖艶な女性像にみられるように、技巧の点でも、またすきのない完璧な表現力の点でも、高く評価されてきました。

この画家の作品にいち早く注目した日本人は、西洋美術の研究者ではなく、画家田口安男(東京芸術大学名誉教授、1930年生まれ)でした。田口は、68年から2年間イタリアに留学し、古典技法として黄金背景テンペラ画を学びました。帰国後は、学生たちにもこの技法を教えていました。この模写を制作した十二氏をはじめ、今回の出品作家たちの多くは、実は田口の教え子なのです。

先日、美術館で行われた十二氏のギャラリートークでは、このテンペラ画が、油彩画とはまったく異なる技法であり、しかも完成までにいくつもの段階をクリアしなければならぬことを力説していました。(田中)

大川美術館企画展から

《名画の扉》

